

# フィットネス産業の 人材育成のために



- 人材育成の進め方と企業での実際の取り組み事例です

## 1. 人材育成への活用方法…3

- 実施した企業の感想です

## 2. 取り組み企業の声…26

- 実際のツールの見本です

## 3. 職業能力評価シートサンプル…28

最初にお読み下さい

イントロダクション ..... 2

人材育成の進め方と、企業での実際の取り組み事例です

1. 人材育成への活用方法 ..... 3

① 課題の明確化と活用するツール ..... 4

ツール① キャリアマップとは ..... 5

ツール② 職業能力評価シートとは ..... 7

② ツールの導入準備 ..... 11

キャリアマップの修正方法 ..... 11

職業能力評価シートの修正方法 ..... 13

③ ツールの導入と人材育成施策への展開 ..... 15

テーマ① 企業・職場の人材レベルの把握 ..... 15

取り組み事例 支配人のスキル把握による組織全体の育成課題の「見える化」 ..... 16

テーマ② 階層別の人材育成 ..... 17

取り組み事例 店舗スタッフの強み・弱みの把握と結果のフィードバックによる人材育成 ..... 19

取り組み事例 若手インストラクターのスキルの現状の確認 ..... 20

テーマ③ 能力チェックの高度化 ..... 21

テーマ④ 中途採用時の知識・スキルレベルの把握 ..... 23

実施した企業の感想です

2. 取り組み企業の声 ..... 26

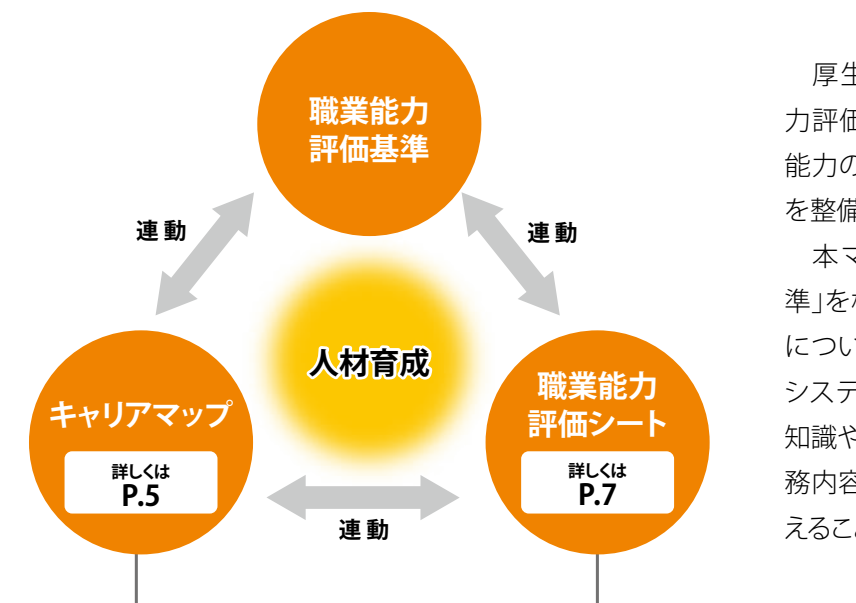
実際のツールの見本です

3. 職業能力評価シートサンプル ..... 28

COLUMN

- フィットネス産業に関する資格・検定等について ..... 6
- キャリアマップにおける各レベルの年数の設定について ..... 6
- 職業能力評価基準とは ..... 9
- ツール活用の流れ（イメージ） ..... 10
- 各社の実状に即したカスタマイズ（修正）の進め方 ..... 14
- 評価者同士の会議（目線合わせ会議）の開催 ..... 22
- 人材要件確認表について ..... 24
- フィットネス産業の業界特性に応じたツールの活用 ..... 25

職業能力評価基準を核とした人材育成システム



厚生労働省では、我が国の「職業能力評価制度」の中心をなす公的な職業能力の基準として「職業能力評価基準」を整備しています。

本マニュアルは、「職業能力評価基準」を核とした人材育成の仕組みづくりについて紹介しています。この人材育成システムの特徴は、本業種の汎用的な知識やスキルを網羅した上で、自社の業務内容に応じた実践的な人材育成を行えることにあります。

① 「キャリアマップ」を使用し、  
 ●企業は従業員のキャリアの方向性を示す  
 ●従業員はキャリアの歩み方を確認する

② 「職業能力評価シート」を用い現時点の能力レベルを測定

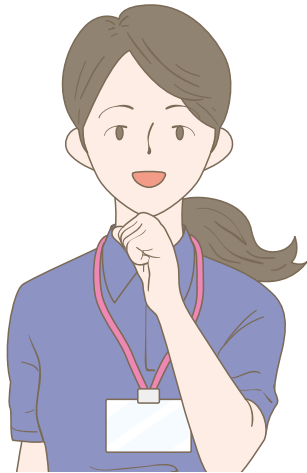
③ 業務経験（OJT等による能力開発）

④ 「職業能力評価シート」を用い能力開発後の能力判定

**目指すべきゴール**  
 「キャリアマップ」及び「職業能力評価シート」を使用し、  
 ●従業員の能力アップ  
 ●育成によるモチベーション向上

# 「企業の成長」と「従業員の成長」に向けた 取り組みを始めませんか？

このマニュアルは、「企業の発展に繋がる人材育成」をお考えの方に  
向けて作成されたものです。「企業は人なり」と言われるように、従業  
員のスキルは企業の最大の資産であり、成長の源泉でもあります。従業  
員のスキルをより一層強化していきたいとお考えの方、自社の人材育成  
施策やツールを見直したいとお考えの方は、是非、このマニュアルを参  
考にして活用して下さい。



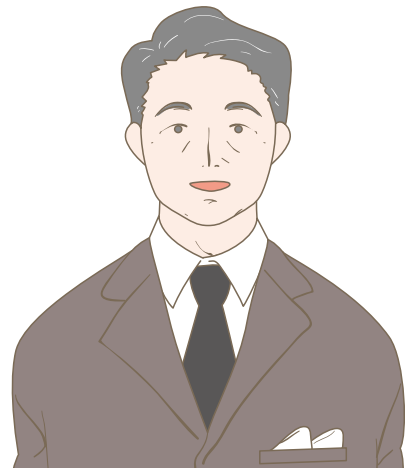
株式会社エイム  
店舗支配人

店舗支配人の立場から部下をみていて感じることは、  
自分に与えられた仕事をこなすだけでなく、さらにも  
う一段階上のレベルにステップ・アップすることを見  
据えて取り組んでほしいということです。

「職業能力評価シート」を使ってスキルのチェックを  
行えば、ステップ・アップするために具体的に何が足  
りないかがクリアになりますから、部下に対するアド  
バイスも行いやすくなり、能力開発を進めるためのツ  
ールとしてとても効果的だと思います。

インストラクターは専門職としての色彩が強い  
仕事であり、基本的な事項を幅広く習得したあと  
は、誰もがいずれかの分野で突き抜けたスキルを  
身につけてほしいと感じています。

「職業能力評価シート」や「OJT コミュニケーシ  
ョンシート」を活用してスキルのチェックを行うこ  
とで、高いレベルに到達している分野や、まだま  
だ課題が残る分野が見えてくるため、今後、重点  
的に組むべき課題が明確になります。強み・弱み  
を確認し、能力開発の気づきを得るツールとして  
有効だと思います。



株式会社ハクヨプロデュースシステム  
営業統括部長